

## 2021年度(評価対象期間:2021年4月~2022年3月) 自己点検・評価シート

## 1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	(1)	学部・学科ごと、研究科又は専攻ごとに人材育成その他の教育研究上の目的を設定していますか。また、その内容は適切ですか。	A
		(2)	大学の理念・目的と学部・研究科の目的に連関性がありますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 商学研究科の人材の養成・教育研究上の目的は、2018年度第6回商学研究科委員会において原案が提示され、同委員会での検討、審議の結果、設定されている。また、それを改定した人材の養成・教育研究上の目的が、2021年度第5回商学研究科委員会において原案が提示され、同委員会での検討、審議の結果、設定されている。いずれにおいても、商学研究科の人材育成その他の教育研究上の目的が明示的かつ適切に記述されている。				
(2) 商学研究科の人材育成・教育研究上の目的は、大学の理念・目的との関連性を考慮し、設定されている。同目的では、大学の理念・目的である「行学一体・報恩感謝」の精神に則って人材育成および教育研究を行うことが示されている。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
「人材の養成・教育研究上の目的」ウェブサイト <a href="https://www.agu.ac.jp/guide/ideal/">https://www.agu.ac.jp/guide/ideal/</a>				
2018年度第6回大学院商学研究科委員会議事録				
2021年度第5回大学院商学研究科委員会議事録				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。	(1)	学部・学科ごと、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的を適切に明示していますか。	A
		(2)	教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等により、大学の理念・目的、学部・研究科の目的等が周知及び公表されていますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 商学研究科の人材育成その他の教育研究上の目的は、「愛知学院大学人材の養成・教育研究上の目的に関する規程」において、適切に明示されている。ビジネスの実践的な研究を通して、最先端のビジネス・エキスパートを育成すること、さらに現役ビジネス・パーソンのリカレント教育を行うことを人材育成の目的、流通・マーケティング、金融、国際ビジネス、会計学、経済学、経営学、租税法といった商学の領域において、先端的な研究を行うこと、そしてそれに基づいた実践的教育を行うことを教育研究上の目的としている。				
(2) ウェブサイトおよび大学院要項において「人材の養成・教育研究上の目的」を教職員及び学生に周知するとともに、社会に公表している。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
「愛知学院大学人材の養成・教育研究上の目的に関する規程」				
「人材の養成・教育研究上の目的」ウェブサイト <a href="https://www.agu.ac.jp/guide/ideal/">https://www.agu.ac.jp/guide/ideal/</a>				
「人材の養成・教育研究上の目的(商学研究科)」(大学院要項)				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。 特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	長所・特色
なし	

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。 特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
なし	

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既に実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
なし	

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

5. 「基準1」全体の自己評価

基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。	自己評価
	A

## 2021年度(評価対象期間: 2021年4月~2022年3月) 自己点検・評価シート

## 1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	方針及び手続に基づき、内部質保証システムは有効に機能しているか。	(1)	学部・研究科その他の組織における定期的な点検・評価及び点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを計画的に実施していますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1)本年度は「商学研究科自己点検・自己評価委員会」を2回催し、点検・評価および点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っている。また、本研究科に所属する教員は大学の研究業績データベースに「教員の活動における自己点検・自己評価」を入力するとともに、教育活動に関する自己点検・自己評価を年度ごとに継続して行っている。そこでは各自の教育活動の実績、教育方法の改善や工夫などを入力して検証し内部質保証の向上に努めている。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
2021年度第1回商学研究科自己点検・自己評価委員会議事録				
2021年度第2回商学研究科自己点検・自己評価委員会議事録				
「研究業績登録」ウェブサイト <a href="https://aris.agu.ac.jp/aiguap/P300">https://aris.agu.ac.jp/aiguap/P300</a>				

## 2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。	
点検・評価項目番号	長所・特色
なし	
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

## 3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。	
点検・評価項目番号	課題・問題点
なし	

## 4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既の実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
なし	

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

## 5. 「基準2」全体の自己評価

	自己評価
基準全体の評価を、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」から選択してください。	A

2021年度(評価対象期間:2021年4月~2022年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	(1)	課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針を適切に設定し公表していますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1)商学研究科委員会において学位授与方針を定め、大学院課程修了のために修得すべき知識、能力を適切に設定し、大学ウェブサイトおよび大学院要項において公表している。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
「ディプロマ・ポリシー(博士前期課程)」、「ディプロマ・ポリシー(博士後期課程)」ウェブサイト <a href="https://www.agu.ac.jp/guide/ideal/">https://www.agu.ac.jp/guide/ideal/</a>				
「ディプロマ・ポリシー(博士前期課程)」、「ディプロマ・ポリシー(博士後期課程)」(大学院要項)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1)	下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定及び公表をしていますか。 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等	A
		(2)	教育課程の編成・実施方針と学位授与方針には適切な関連性がありますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1)商学研究科の教育課程の編成・実施方針として、教育課程の体系、教育内容、授業形態等を大学ウェブサイトおよび大学院要項にて公表している。また、具体的な教育課程の体系、授業科目区分、授業形態等については、愛知学院大学大学院学則において示している。</p> <p>(2)商学研究科委員会にて、カリキュラム・ポリシーを検討、修正し、教育課程の編成・実施に関する基本的な考え方を示し、教育課程の編成・実施方針と学位授与方針とが適切な関連性を持つように考慮している。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
「カリキュラム・ポリシー(博士前期課程)」、「カリキュラム・ポリシー(博士後期課程)」ウェブサイト <a href="https://www.agu.ac.jp/guide/ide">https://www.agu.ac.jp/guide/ide</a>				
「カリキュラム・ポリシー(博士前期課程)」、「カリキュラム・ポリシー(博士後期課程)」(大学院要項)				
「愛知学院大学大学院学則」ウェブサイト <a href="https://www.agu.ac.jp/guide/regulation/">https://www.agu.ac.jp/guide/regulation/</a>				
2021年度第3回、第10回大学院商学研究科委員会議事録				

点検・評価項目		評価の視点	自己評価
③	教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1) 教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性はとれていますか。	A
		(2) 教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮、授業科目の位置づけ(必修、選択等)は適切ですか。	A
		(3) 個々の授業科目の内容及び方法は、教育課程の編成・実施方針を踏まえていますか。	A
		(4) 各学位課程にふさわしい教育内容を設定していますか。 <学士課程> 初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等 <修士課程、博士課程> コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等	A
		(5) 学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を適切に実施していますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 商学研究科委員会にて、教育課程の編成・実施方針と教育課程とが整合的になるよう検討、策定している。例えば、博士前期課程のカリキュラム・ポリシーにおいては、教育課程における具体的な専門分野を示し、教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性を確保している。また現在、「人材の養成・教育研究上の目的」に合わせ、カリキュラム・ポリシーおよび設置科目の改定に着手している。</p> <p>(2) 商学研究科の教育課程の編成・実施方針と整合するように、適宜、カリキュラムの適切性を商学研究科委員会において検討、審議している。流通・マーケティング領域、国際ビジネス領域、金融領域などといった領域ごとに複数の科目を開講し、専門領域内で体系的な学修が可能となるように配慮された適切な教育課程の編成となっている。</p> <p>(3) 個々の授業科目の内容および方法が、教育課程の編成・実施方針と整合するように、教員相互によるシラバスの第三者チェックを行い、授業科目の内容などの適切性を確認している。</p> <p>(4) 商学研究科の教育課程の編成・実施方針と整合するように、カリキュラムの適切性を商学研究科委員会において検討、審議している。例えば、2021年度第6回商学研究科委員会においてカリキュラムの見直しが審議されている。博士前期課程においては、各領域において複数科目が開講され、専門科目を複数受講可能な体制が用意されており、その上で修士論文の執筆が可能となっている。</p> <p>(5) 博士前期課程では、税理士志望の大学院生が多いことから、実務経験を有する教員が、学修内容が将来の実務能力の向上へと結実するように、税理士に必要なリーガルマインド教育を行っている(例えば、租税法研究(I)(租税法実務)A講義など)。博士後期課程では、博士候補者試験、公開審査会などを実施し、語学力、発表能力といった研究者に必要な能力を養うための機会を設けている。</p>			
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>			
根拠資料名			
「カリキュラム・ポリシー(博士前期課程)」ウェブサイト <a href="https://www.agu.ac.jp/guide/ideal/">https://www.agu.ac.jp/guide/ideal/</a>			
2021年度第3回、第10回大学院商学研究科委員会議事録			
「愛知学院大学大学院学則」ウェブサイト <a href="https://www.agu.ac.jp/guide/regulation/">https://www.agu.ac.jp/guide/regulation/</a>			
2021年度第8回大学院商学研究科委員会議事録			
2021年度第6回大学院商学研究科委員会議事録			
「租税法研究(I)(租税法実務)A講義シラバス」ウェブサイト <a href="https://wcs.agu.ac.jp/campus/slsshjr.do">https://wcs.agu.ac.jp/campus/slsshjr.do</a>			
「商学研究科研究指導計画書」(大学院要項)			

点検・評価項目		評価の視点	自己評価
④	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1) 単位の実質化を図るための措置(授業時間外に必要な学習の促進、学士課程においては履修登録単位数の上限設定等)を講じていますか。	A
		(2) シラバスの内容(授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示)は適切ですか。授業内容とシラバスとの整合性が確保されていますか。	A
		(3) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法などの措置を講じていますか。	A
		(4) 各学位課程に応じてその他の措置を講じていますか。 <学士課程> ・授業形態に配慮した1授業あたりの学生数、適切な履修指導の実施 <修士課程、博士課程> ・研究指導計画(研究指導の内容及び方法、年間スケジュール)の明示とそれに基づく研究指導の実施	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1) 大学院要項において標準となる履修方法を示し、課程修了に必要な単位の標準的な履修モデルを示している。また、履修者には予習して授業に参加することをシラバスにて求めている(例えば、会計学研究(V)(会計制度論)A講義シラバス)。 (2) 講義科目は、共通のフォーマットに従いシラバスが作成されている。そこには、科目のねらい、到達目標、授業内容・計画、評価方法、授業外の学修等が明示されている。シラバス公表前に、シラバスの第3者チェックを行い、授業内容とシラバスの整合性を確認している。 (3) ほとんどの開講科目は、予習をして臨み、時間内において報告発表し、質疑に応答するといった授業形態をとっており、受講学生には主体的な参加が求められている(例えば、会計学研究(V)(会計制度論)A講義シラバス)。 (4) 学位取得のための研究活動に関わる年間スケジュールを大学院要項において示している。また、大学院生が作成し、指導教授によって承認を受けた研究経過報告書ないしは修士論文作成計画書の提出を求めている。			
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。			
根拠資料名			
商学研究科(大学院要項)			
「会計学研究(V)(会計制度論)A講義シラバス」ウェブサイト <a href="https://wcs.agu.ac.jp/campus/slbbsshjr.do">https://wcs.agu.ac.jp/campus/slbbsshjr.do</a>			
2021年度第8回大学院商学研究科委員会議事録			

点検・評価項目		評価の視点	自己評価
⑤	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1) 単位制度の趣旨に基づく単位認定を行っていますか。また、既修得単位の適切な認定を行っていますか。	A
		(2) 成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置を講じていますか。	A
		(3) 卒業・修了要件を明示していますか。	A
		(4) 〈修士課程・博士課程〉学位論文審査基準を明示していますか。	A
		(5) 学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するためにどのような措置を講じていますか。学位授与に係る責任体制及び手続は明示されていますか。	A
		(6) 適切に学位授与を行っていますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 単位制度の趣旨に基づき、愛知学院大学学則第4章「課程修了の認定」では、授業科目の形態に応じた単位認定について記載されており、同学則に基づいた単位認定を行っている。また、既修得単位についても10単位を超えない範囲で適切に認定を行っている。</p> <p>(2) 各科目担当者がシラバスにおいて成績評価の基準を明らかにしている(例えば、流通・マーケティング論研究(I)(流通論)A講義シラバス)。</p> <p>(3) 卒業・修了要件は、愛知学院大学学則第5章「学位及びその授与」および大学院要項に記載され、明示されている。</p> <p>(4) 修士課程および博士課程の学位論文審査基準は、愛知学院大学大学院学位論文審査基準として大学院要項において示されている。</p> <p>(5) 修士の学位論文は、3名の審査委員によって論文審査および口頭試問が行われ、また、博士の学位論文は、①事前審査(審査委員3名)、②公開審査会、③学位申請、④予備審査(審査委員3名)、⑤口頭試問、⑥本審査、⑩学位授与の決定というプロセスで段階的に審査が行われることで、学位審査の客観性および厳格性を確保している。これら審査方法は大学院要項において明示されている。</p> <p>(6) 上述のような審査プロセスを経て、最終的には、商学研究科委員会および全学大学院委員会での審議のもと、適切に学位授与を行っている。</p>			
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>			
根拠資料名			
「愛知学院大学大学院学則」ウェブサイト <a href="https://www.agu.ac.jp/guide/regulation/">https://www.agu.ac.jp/guide/regulation/</a>			
「流通・マーケティング論研究(I)(流通論)A講義」シラバスウェブサイト <a href="https://wcs.agu.ac.jp/campus/slsshjr.do">https://wcs.agu.ac.jp/campus/slsshjr.do</a>			
大学院要項			
「愛知学院大学大学院学位論文審査基準(商学研究科)」(大学院要項)			
「愛知学院大学大学院研究指導計画書(商学研究科)」(大学院要項)			
2021年度第10回大学院商学研究科委員会議事録			



点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑥	学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)	各学位課程の分野の特性に応じて、学位授与方針に示した学習成果を測定するための多角的で適切な指標設定を行っていますか。	A
		(2)	学習成果を把握及び評価するために適切な測定方法を用いていますか。 ≪学習成果の測定方法例≫ ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1) 愛知学院大学学位規則において学位授与の条件が示されているが、当該規則に示された条件の達成度を測るため、学習成果の集大成である学位論文について、より詳細で多角的な審査基準を設定し、学習成果を測定するための適切な指標設定を行っている。当該学位論文審査基準は大学院要項において明示している。くわえて、ディプロマ・ポリシーをもとに作成したルーブリックを学位論文審査および学位授与の評価基準として利用しており、学習成果を測定するための多角的で適切な指標の設定を行っている。 (2) 修士の学位論文については、学位論文審査基準を設定するとともに、複数の審査委員による論文審査および口頭試問の結果を得点化し、評価することで、博士の学位論文については、学位論文審査基準を設定するとともに、事前審査、公開審査会、予備審査、口頭試問、本審査の各プロセスにおいて審査することで、多角的、多面的に学位授与方針に示した学習成果を達成しているかどうかを測り、学習成果を適切な方法で評価している。これら評価プロセスは大学院要項において示されている。また、上述のように、ディプロマ・ポリシーをもとに作成したルーブリックを学位論文審査および学位授与の評価基準として利用している。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
「愛知学院大学学位規則」ウェブサイト <a href="https://www.agu.ac.jp/graduate/rules/">https://www.agu.ac.jp/graduate/rules/</a>				
「愛知学院大学大学院学位論文審査基準(商学研究科)」(大学院要項)				
商学研究科 学位論文審査基準および学位授与の方針(DP)評価基準				
「愛知学院大学大学院研究指導計画書(商学研究科)」(大学院要項)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑦	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価を行っていますか。 ・学習成果の測定結果の適切な活用	A
		(2)	点検・評価結果に基づき、改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1) 授業アンケートおよび学修状況アンケートを実施し、アンケート結果は研究科長のもとに届き、教育課程の点検・評価に活用している。また、FD委員を任命し、FD活動を行っている。2021年度においては、商学研究科の自己点検・自己評価委員会において、2021年度の振り返りを中心に、教育課程およびその内容・方法が適切であるか、さらなる改善点がないか、自己点検・自己評価を行っている。 (2) 自己点検・自己評価をもとに次年度の方針を設定している。また、FD研究会を開催し、教育研究活動の向上をはかっている。2021年度は、ルーブリックを利用した学位論文審査をテーマとしてFD研究会を開催した。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
2021年度商学研究科FD研究会報告書				
2021年度第1回大学院商学研究科自己点検・自己評価委員会議事録				
2021年度第2回大学院商学研究科自己点検・自己評価委員会議事録				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	長所・特色
なし	

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
なし	

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
なし	

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

5. 「基準4」全体の自己評価

基準全体の評価を、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」から選択してください。	自己評価
	A

2021年度(評価対象期間: 2021年4月~2022年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。	(1)	学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を適切に設定し、公表していますか。	A
		(2)	下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針を設定していますか。 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法	A
<p>【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) ディプロマポリシー、カリキュラム・ポリシーを踏まえアドミッション・ポリシーを適切に設定し、大学のウェブサイトおよび学生募集要項・大学院要項に掲載し、公表している。</p> <p>(2) 入学前の能力等の求める学生像や入学希望者に求める水準等を踏まえたアドミッションポリシーを設定し公表している。</p>				
<p>【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
「アドミッション・ポリシー(博士前期課程)」、「アドミッション・ポリシー(博士後期課程)」ウェブサイト <a href="https://www.agu.ac.jp/guide/ideal/">https://www.agu.ac.jp/guide/ideal/</a>				
「アドミッション・ポリシー(博士前期課程)」、「アドミッション・ポリシー(博士後期課程)」(学生募集要項)				
「アドミッション・ポリシー(博士前期課程)」、「アドミッション・ポリシー(博士後期課程)」(大学院要項)				

基準5. 学生の受け入れ

組織名 商学研究科

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	(1)	学生の受け入れ方針に基づき学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定していますか。	A
		(2)	入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制を適切に整備していますか。	A
		(3)	公正な入学者選抜を実施していますか。	A
		(4)	入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施していますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) アドミッションポリシーに基づき商学研究科委員会において、募集要項および入学者選抜基準・方法について審議し、入学者選抜制度を適切に設定している。</p> <p>(2) 入学試験においては、試験委員が選定され、入試施行要領に基づき入試を実施するとともに、合否判定においては、商学研究科委員会において合否を判定し、大学院委員会で最終的に研究科委員会の判定内容を審議して合否を決定するなど、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制を適切に整備している。</p> <p>(3) 入試問題作成者は商学研究科委員会において決定するとともに、入学試験実施後の合否判定は、商学研究科委員会において判定し、大学院委員会で最終的に本研究科委員会の判定内容を審議しており、公正な入学者選抜を実施している。</p> <p>(4) 入学希望者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施している(社会人の入学者選抜における外国語免除の入試の実施、傷病・障害等の申し出があった際の配慮等)。合否判定は、基準に沿って、商学研究科委員会、大学院委員会で審議し公平な入学者選抜を実施している。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
学生募集要項				
2021年度第1回大学院商学研究科委員会議事録				
2021年度第2回大学院商学研究科委員会議事録				
2021年度第5回大学院商学研究科委員会議事録				
2021年度第9回大学院商学研究科委員会議事録				

基準5. 学生の受け入れ

組織名

商学研究科

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1)	入学定員及び収容定員を適切に設定し、在籍学生数を管理していますか。 <学士課程> ・入学定員に対する入学者数比率 ・編入学定員に対する編入学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応 <修士課程、博士課程、専門職学位課程> ・収容定員に対する在籍学生数比率	B
[現状] 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1) 2021年度は、収容定員に対する在籍学生比率は、博士前期課程は50%(収容定員20名:在籍学生数10名)、博士後期課程6.7%(収容定員15名:在籍学生数1名)である。				
[根拠資料] 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
「収容定員及び在籍学生数」ウェブサイト <a href="https://www.agu.ac.jp/guide/data/education.html">https://www.agu.ac.jp/guide/data/education.html</a>				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価を行っていますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づき改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
[現状] 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1) 商学研究科委員会において当年度の受験者数および入学者数を確認するとともに、次年度の入学試験概要について審議している。また、商学研究科中期目標においても入学者の確保を達成目標の一つとしており、商学研究科委員会において、達成状況および次年度の対応を審議している。 (2) 上述のように商学研究科委員会において、学生の受け入れの適切性について確認するとともに次年度に向けた対応を検討している。				
[根拠資料名] 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
2021年度第1回大学院商学研究科委員会議事録				
商学研究科中期目標				
2021年度第10回大学院商学研究科委員会議事録				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	長所・特色
なし	

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
なし	

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既に実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
なし	

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

5. 「基準5」全体の自己評価

基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。	自己評価
	A

2021年度(評価対象期間:2021年4月~2022年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	大学の理念・目的に基づき大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	(1)	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を適切に明示していますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 教員組織の編制方針を策定し、適切に明示している。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
商学研究科 教員組織の編制方針				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1)	大学全体及び学部・研究科等ごとの専任教員数は適切ですか。	A
		(2)	学部・研究科等ごとの専任教員数を適切に維持するため、計画的に募集・採用・昇任等を実施していますか。	A
		(3)	教員組織の編制に関する方針に基づき、適切に教員組織を編制していますか。 ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員(教授、准教授、講師又は助教)の適正な配置 ・各学位課程の目的に即した教員配置(国際性、男女比等も含む) ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置 ・教員の授業担当負担への適切な配慮 ・バランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置	A
		(4)	学士課程における教養教育の運営体制は適切ですか。	
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 商学研究科における専任教員数は適切である。				
(2) 研究科の専任教員数を適切に維持するため、計画的に募集・採用・昇任等を実施している。本年度も商学研究科委員会において退職予定者の補充のための人事計画を審議している。				
(3) 博士前期課程では学生が広い視野に立って基礎的な研究能力と高度な専門的職業能力を習得できるように、流通・マーケティング、金融、国際ビジネス、会計学、租税法、経営学、経済学の7つの専門分野を設定している。また、博士後期課程では流通・マーケティング、金融、国際ビジネス、会計学、租税法に関する研究指導を設定し大学院生が学位論文作成と学位取得を達成できるよう支援している。これら教育上主要と認められる授業科目において専任教員の資格を明確化し、適正な配置に基づく教員組織を編制している。				
(4)				

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

「教員組織・教員数」ウェブサイト<https://www.agu.ac.jp/guide/data/education.html>

2021年度第10回大学院商学研究科委員会議事録

「商学研究科」(大学院要項)

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	(1)	教員の職位(教授、准教授、講師、助教等)ごとの募集、採用、昇任等に関する基準及び手続を設定し、規程を整備していますか。	A
		(2)	規程に沿った教員の募集、採用、昇任等を実施していますか。	A

〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。

(1) 教員の募集・採用・昇格等については内規が整備されており、それに基づき適切に人事が進められている。募集・採用人事に関しては、学部を基礎とする研究科においては、大学院担当として原則として独自の募集・採用は行っていないが、博士前期課程、後期課程ともに資格審査を改めて行っている。大学院担当教員の資格基準については、「愛知学院大学大学院教員資格内規についての確認事項」(2002(平成14)年5月10日改定)に定められている。

(2) 商学研究科の人事に関しては、「愛知学院大学大学院教員資格内規についての確認事項」(2002年5月10日改定、2014年度に昇任人事規程を見直し)にしたがって適正に進められている。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

愛知学院大学大学院教員資格内規についての確認事項

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1)	ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的に実施していますか。	A
		(2)	教員の教育活動、研究活動、社会活動等の評価を行い、結果を活用していますか。	A

〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。

(1) 商学研究科委員会にてFD委員を選出し、商学研究科独自のFD活動を展開するとともに全学の大学院委員会と連携しFD活動を組織的に実施している。授業評価アンケートの実施方法や結果の活用などを同委員会で審議するなどのFD活動を行っている。また、本研究科主催FD研究会を開催している。

(2) 大学が実施する教員業績に関するデータベースシステムに本研究科の教員の教育研究活動について入力し、本学ホームページ上で教員業績の公開を行っている。また、同データベースシステムを利用し、教育・研究・社会貢献・大学運営の4つの分野について毎年度目標と自己評価を入力し、教員の教育研究活動その他諸活動の結果の活用につなげている。



〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

2021年度第1回、第9回大学院商学研究科委員会議事録

「各教員が有する学位及び業績」ウェブサイト<https://www.agu.ac.jp/guide/data/education.html>

「研究業績登録」ウェブサイト<https://aris.agu.ac.jp/aiguap/P300>

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑤	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価を実施していますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A

〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。

(1) 教員組織の適切性については、随時研究科委員会の議題としており、点検・評価を実施している。

(2) 随時商学研究科委員会の議題とし改善・向上に向けた取り組みを行っている。同委員会において教員組織の適切性について審議し、それを踏まえ点検・評価を行なっている。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

商学研究科中期目標

商学研究科中期目標の進捗度の確認

2021年度第10回大学院商学研究科委員会議事録

## 2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	長所・特色
なし	

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。	
点検・評価項目番号	課題・問題点
なし	

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に行っている場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。	
点検・評価項目番号	改善策
なし	
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

5. 「基準6」全体の自己評価

基準全体の評価を、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」から選択してください。	自己評価
	A

2021年度(評価対象期間:2021年4月~2022年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1)	学外組織との適切な連携体制を構築していますか。地域交流、国際交流事業への参加に取り組んでいますか。	A
		(2)	社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動を推進していますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 研究科と大学の社会連携センター、国際交流センターと連携し社会連携・社会貢献に関する取り組みが実施されている。</p> <p>(2) 各教員が毎年、社会貢献に関する目標・計画を検討する際に、上述のプロセスを通じて得られた前年の社会連携・社会貢献に関する自己点検・評価結果を反映させている。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
「研究・産学官連携」ウェブサイト <a href="https://www.agu.ac.jp/organ/">https://www.agu.ac.jp/organ/</a>				
「研究業績登録」ウェブサイト <a href="https://aris.agu.ac.jp/aiguap/P300">https://aris.agu.ac.jp/aiguap/P300</a>				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価を実施していますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 各教員は大学の研究業績データベースに社会連携・社会貢献に関する毎年の活動記録を入力するとともに、そのアンケートに回答する形で社会連携・社会貢献活動に関する自己点検・自己評価を実施している。</p> <p>(2) 社会貢献に関する目標・計画を検討する際に、各教員が毎年、上述のプロセスを通じて得られた前年の社会連携・社会貢献に関する自己点検・評価結果を反映させて策定している。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
「研究業績登録」ウェブサイト <a href="https://aris.agu.ac.jp/aiguap/P300">https://aris.agu.ac.jp/aiguap/P300</a>				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	長所・特色
なし	

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
なし	

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既にも実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
なし	

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

5. 「基準9」全体の自己評価

基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。	自己評価
	A